

2022年度 事業報告書

衣料管理士 (TA) 関係

◆衣料管理士(TA)資格の認定・登録

	大学正会員卒業生 [2023年3月認定]	大学正会員卒業生 [2022年9月認定]	2022年度認定・登録者
1級	376名	0名	376名
2級	243名	0名	243名
専修	6名	0名	6名
計	625名	0名	625名

◆高校生へのTA広報

◇DVD「ファッションビジネスと衣料管理士」、ポスター、パンフレットによる高校生へのTA広報

- 全国約1,300校の高等学校の家庭科担当教員へ送付
- 会員大学のオープンキャンパスなどで活用

◇高校の関係組織との連携

- 全国高等学校長協会家庭部会（校長の組織）
 - ・出版物『家庭部会報』（購読者：校長・家庭科教員）へ広告掲載
 - ・会員名簿に広告掲載
- 全国高等学校家庭クラブ連盟（高校生・家庭科教員の組織）
 - ・出版物『Future Homemakers of Japan』（購読者：高校生・家庭科教員等）へ広告掲載
 - ・家庭クラブ研究発表大会の資料にTA広告掲載

◆大学新生へのTA広報

- 『衣料管理士パンフレット』を製作し、会員大学新生へ広報

◆企業・団体へのTA広報

- 『衣料管理士パンフレット』を製作し、TES試験を推奨している企業・団体へ広報

◆調査事業

＝衣料の使用実態調査＝

◇2021年度調査の実施分データの解析と報告書の刊行

- 調査対象者：23校、学生590人
- 依頼日：2021年11月12日
- 回収：2022年2月
- 報告書刊行：2023年3月（トピックス調査とまとめて1冊で刊行）

◇2022年度調査の実施

- 調査対象者：21校、学生539人
- 依頼日：2022年11月1日
- 回収：2023年2月
- 報告書刊行：2023年秋予定

＝トピックス調査＝

◇2021年度実施『衣服と環境に関する調査』のデータ解析と報告書の刊行

調査対象者：23校、学生590人

依頼日：2021年11月12日

回収：2022年2月

報告書刊行：2023年3月（衣料の使用実態調査とまとめて1冊で刊行）

◇2022年度実施『リクルートファッションについての調査』のデータ解析と報告書の刊行 調査対象者：21校、学生539人

依頼日：2022年11月1日

回収：2023年2月

報告書刊行：2023年秋予定

＝衣料管理士の就職状況調査＝

調査対象者：2023年3月卒業の衣料管理士取得者

依頼日：2023年4月

◆研修事業

◇TA養成教員のブラッシュ・アップ講座

テーマ：北陸地区の繊維関係の工場見学

開催日：2023年3月22日（水）～23日（木）

見学先：・(株)ゴールドウイン

・(株)ランブール

・丸井織物(株)

参加者：13名

◆大学正会員関係

◇年次報告書審査

報告書提出：2022年6月末日

審査：大学審査プロジェクト（2022年8月5日開催）

第215回常任委員会（2022年4月18日開催）

第216回常任委員会（2022年10月8日開催）

第217回常任委員会（2023年2月17日開催）

結果の通知：2022年10月27日

◇主務教員会議の開催

開催日：2022年12月10日（土）14:00～17:00

会場：芝公園フロントタワー 3階「Room A」

内容：□新衣料サイズJIS開発の経緯と解説

大塚美智子常任委員会委員長（日本女子大学）

□研究事例報告「(株)ワークマン 成長への軌跡」

藤田雅夫常任委員会副委員長（共立女子大学）

□調査結果報告（調査部会）

「トピックス調査『衣服と環境に関する調査』」

依田素味常任委員会調査部会委員（日本経済大学）

□協会からの報告

・創立50周年記念「TAバーチャル工場見学」について

- ・TES試験結果について
- ・TA養成教員のブラッシュ・アップ講座
- ・出版物紹介 「ファッションビジネスの基礎知識」

出席者：23名

◆『衣料管理士の集い』の活動への支援

- 衣料管理士相互の情報交換
- 勉強会、見学会による自己研さん活動

◇勉強会

日程	支部	内容
5月17日	3支部共通	知っておきたい食品表示・衛生管理の知識(オンライン)
9月15日	3支部共通	バナナクロスについて(オンライン)
2023年 3月18日	3支部合同	(対面にて開催) ・世界のサステナブル事情と国際認識基準アップデート ・阪急阪神百貨店の『サステナブル製品の基本原則』と品質管理のルール ・サステナビリティへの対応と品質管理について

◇見学会

日程	支部	
10月21日	3支部合同	(株)シキボウ江南 (株)桑原 (一財)ケケン試験認証センター

◆TA交流プロジェクトチームの活動

- 目的：現場で活躍する衣料管理士が衣料管理士取得の意義、業界で役立つ知識などを、衣料管理士を目指す学生に伝え、学生の衣料管理士取得のモチベーションを高め、衣料管理士取得希望者を増やす。

- 発 足：2017年7月4日

- メンバー：協会常任委員（衣料管理士資格者）、衣料管理士の集い幹事

◇TA交流会の実施

現場で働く衣料管理士が、学生に対して、仕事内容、これまでの業務経験、TAの知識が役立つエピソード、TA資格の意義、学生へのアドバイスなどを講演した。

今年度はコロナ禍のため対面ではなく、オンデマンド配信形式で実施した。講師4名の動画データをUSBメモリに入れ、養成大学26校へ配布した。配信期間は2023年3月末日まで。

◆TAワーキングの活動

- 目的：TAにかかわる課題解決に向けて検討し、これからのTAのあるべき姿を探る。

- 発 足：2020年10月3日

- メンバー：大塚美智子常任委員会委員長、牛田智常任委員会副委員長、藤田雅夫常任委員会副委員長、秋浜実和委員、小倉妙子委員、永野孝志委員、濱田仁美委員、諸岡晴美委員、島崎恒藏副会長、TAの集い幹事代表者など

- 内 容：1. TAの質の向上のための検討

(1) 最終試験の導入

2023年度より、TA1級、TA2級ともに「最終試験」を実施することを決定した。ねらいは、①学生に対して卒業前に学生生活での学びを復習することで知識を整理し、より学びを深めてもらうこと、②試験を受けることで繊維製品にかかわる知識を備えていることを確認し、TAを取得したことに

達成感と自信をもって社会で活躍してもらうことである。今期は、委員が最終試験問題を作成し、2022年5月に各大学へ配布した。

(2) 「専修」衣料管理士の新設

2022年度より、①1級TAを取得し、②1級認定校における大学院での科目で、「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の4領域のうち2領域以上から、1級の協会認定登録科目の担当者が担当する大学院の科目を8単位以上修得している、③1級認定校における大学院で修士の学位を取得している者に対し、「専修」衣料管理士を認定することに決定した。ねらいは、より専門的に繊維・ファッション・流通・消費などの関連分野を学ぶ1級TAを取得した大学院生のモチベーションを高め、TA全体の質の向上のためである。2022年度は6名が認定された。

2. その他の検討事項

TA認定基準の見直し、TAの認知度向上のためのSNSの導入、企業と大学との情報交流会の案内をした。

繊維製品品質管理士 (TES) 関係

◆繊維製品品質管理士(TES)資格の認定・登録

◇新規登録試験 (第41回)

出願者	試験合格者	2022年度認定・登録者
1,620名	265名	263名

◇登録更新試験 (対象：第1期・第6期・第11期・第16期・第21期・第26期・第31期・第36期 TES)

対象者	2022年度登録更新者	更新率
1,691名	1,311名	77.5%

[1,311名の内訳]

更新試験に合格した者	代替措置の適用が認められた者	更新した者 /3回以上の更新で合格扱いの者
608名	128名	575/709名

◆代替措置: TES会等の活動に数多く参加したTESは登録更新試験に合格したものと扱う。

◆3回以上の更新で合格扱いの者: 3回以上の更新者は品質管理の実績があるものと認め登録更新試験に合格したものと扱う。

【繊維製品品質管理士の有資格者総数】

8,157名

[2023年5月2日現在]

◆TES制度の広報

- TESポスター・パンフレットを団体・企業・行政機関等へ送付してTES制度の広報依頼
 - ・繊維関係の業界団体・検査団体
 - ・繊維業界の企業

- ・ネット通販・EC企業
- ・国民生活センター、消費者センター、繊維工業試験場など行政機関
- ・教育機関（大学・専門学校他）

■ 専門紙、学会誌などへTES試験実施要項を掲載して広報
 繊維研新聞、繊維学会誌、日本繊維製品消費科学会誌等

■ 企業訪問によるTES広報

企業や団体などの役員、能力・人材開発責任者にTESをPRし、受験の推奨を依頼。

- ・2023年3月に丸井織物(株)、(株)ゴールドウイン、小松マテーレ(株)、テックワン(株)を訪問し、受験していただけるよう依頼をした。

◆TES受験テキストの発刊

■ 過去問題集（3年分）発刊（12月）

2020年度～2022年度分をまとめて発刊した。

◆TES試験の変更事項

■ 新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言発出により、5月20日の出願の受付締め切りを5月30日まで延長した。

◆苦情衣料品収集プロジェクトチーム

JIS L 0001に基づく苦情品収集。今期、収集活動は行っていない。

◆TES将来構想プロジェクト

■ 目的：中長期的な視野に立ち、これからのTESのあるべき姿、制度、試験内容などについて検討する。

■ 発 足：2020年12月5日

■ メンバー：島崎恒藏副会長、永野暁副会長、藤田雅夫常任委員会副委員長、金森久宙委員、清嶋展弘委員、永野孝志委員

■ 検討内容：TES試験の内容について検討し、次回テキストの改訂（2023年10月発刊予定）につなげる。

■ 開催日：第7回：6月10日（金）

第8回：10月21日（金）

第9回：2023年1月20日（金）

第10回：2023年3月28日（火）

◆TES会活動への支援

東日本・中部・西日本・北陸・中国支部および九州会の活動を支援する。

活動内容は、①自己研さん、②TES相互の情報交換、③行政との連携など。

◇研修会、講演会、見学会など自己研さん活動

< 東日本支部 >

行事	開催日	人数	内 容
年次大会	6月14日	98名	・防寒着の電氣的安全性について
新会員歓迎会	12月12日	69名	・ファッション産業の在り方とサステナビリティ
苦情処理検討会	5月19日	166名	特別企画 50周年記念 第3弾 ・50年間の繊維製品の変遷、及び消費者動向と意識の変換
	7月22日	122名	・水道水の変色(カットソー) ・生地糸の擦り切れ(コート) 【講座】アパレルの品質管理と消費者苦情事例

	9月15日	111名	・プリントの硬化 (Tシャツ) ・白化(合成皮革スカート) 【講座】SDGsの基本的な考え方とクリーニング業における課題
	11月17日	136名	・白系の変色(ベージュコート) ・衿周りの伸び(ニット) 【講座】染料・染色業界のターニングポイントと今日の繊維製品の事故との関係について
	1月18日	100名	・硬化(ファスナーテープ) ・黄変(ハンガーと接する箇所) 【講座】カラーユニバーサルデザイン(CUD)を知ろう!
	3月16日	119名	・シミ(シャツ) ・色落ち(レース付きキャミソール) 【講座】パーソナルカラーで自分ブランディング
クミボウ研	6月23日	66名	・知っておきたい繊維としみ抜き知識
	9月22日	28名	・クリーニング工場見学(東京ホルセル(株))
	11月24日	46名	・ブライダルドレスのクリーニングとメンテナンスサービス
	2月15日	30名	・海外のクリーニング事情について
ライフサイクル研究会	4月13日	115名	特別企画 50周年記念 第2弾 ・繊維業界におけるサステナブル認証ラベルの役割
	7月6日	124名	・縫製工場の見るポイント
	10月20日	56名	・サステナブル関連国際認証の説明と運用について
	1月20日	71名	・BANANA CLOTHについて ～第5の天然繊維を目指して～
	3月29日	105名	・縫製工場のものづくりの現場と100年オーナープラン・ケアプログラム
品質情報展	10月27日	288名	50周年記念行事 第4弾

<中部支部>

行事	開催日	人数	内容
年次大会	5月21日	73名	・脱炭素経営の取り組みについて
新会員歓迎会	1月28日	61名	・「時系列データから読み解く日本人の価値観・消費行動 -コロナ禍で、日本の生活者はどう変化したか-」
クレーム勉強会	4月15日	29名	・クレーム事例検討：(一財)ボーケン品質評価機構
	6月17日	38名	・クレーム事例検討：(一財)ニッセンケン品質評価センター
	8月19日	44名	・クレーム事例検討：(一財)日本繊維製品品質技術センター
	11月25日	25名	・クレーム事例検討：(一財)ケケン試験認証センター
	12月15日	36名	・クレーム事例検討：(一財)カケンテストセンター
	2月17日	38名	・クレーム事例検討：(一財)ボーケン品質評価機構
基礎セミナー	7月30日	72名	・持続可能な消費が地球を救う
	9月3日	38名	・PFOA規制と技術開発最前線

<西日本支部>

2022年度は、コロナ感染拡大もあり、工場見学会と品質問題研究会を合体した併催形式で実施した。

行事	開催日	人数	内 容
年次大会	5月27日	来場43名 リモート62名	・バイオメティクスの視点で見る繊維 ・2030年まであと8年、SDGsがとにかけているもの
繊維勉強会 & 新会員歓迎会	1月27日	来場45名 リモート33名	・繊維産業におけるサステナビリティとTextile Exchange認証 ・衣料品の機能性とその試験方法
工場見学会 & 品質問題研究	11月24日	来場27名 リモート56名	・紡績糸が出来るまでの工程説明 ・繊維製品の機能性評価&人体生理計測
工場見学会	3月24日	37名	・大本染工株
品質問題研究会	8月26日	来場31名 リモート52名	・How to introduce "Sustainable Textile" 世界のサステナブル事情 ・ISOとJIS改正の動向について～新しいドライクリーニング溶剤の課題～
繊維勉強会	7月29日	来場33名 リモート47名	・よこ編ニットの実学講座 ・サプライチェーンにおけるサステナブル経営について～人権・労働問題を中心に
	10月7日	会場41名 リモート51名	・新JIS衣料サイズについて ・広告・表示に関するルール
品質情報展	11月11日	190名	・持続可能な社会の実現を支える化学繊維産業 ・最近の衣料用繊維素材について

<北陸支部>

行事	開催日	人数	内 容
年次大会	5月21日	74名	・機能性試験方法の標準化について ・夏冬オリンピックで着用のトップアスリート装着ウェアの開発経緯と秘話
2022年度 新会員歓迎会・ 特別講演会	12月10日	85名	・変化を続けるアパレルの品質管理 ・東レの高機能テキスタイル素材
品質と技術に 関する講演会	7月23日	86名	・PFOA規制と技術開発の最新動向 ・バイオメティクスの視点から見る繊維
品質に関する 特別講演会	9月24日	74名	・下着の一般知識と品質 ・繊維製品の苦情はなぜなくなるのか
工場見学会 特別講演	11月19日	38名	福井県工業技術センター ・炭素繊維束の開織技術と複合材料への応用
苦情事例研究会	2月25日	22名	・苦情事例5点
繊維製品品質管 理基礎講座	3月25日	53名	・苦情事例の原因と対策について
品質情報展	11月5日	104名	・SDGsとこれからの繊維産業に期待すること

<中国支部>

行事	開催日	人数	内 容
年次大会 勉強会	6月11日	31名	・クレーム事例 ディスカッション ・経編の基礎知識とレディースインナーについて
品質情報展	9月17日	60名	・特別講演 ものづくりの期待と世界戦略 ・地元企業代表者とのパネルディスカッション

新会員歓迎会 勉強会	11月26日	22名	・50周年記念イベントを振り返って ・日本のデニム・世界のデニム
勉強会	4月16日	15名	・ナノファイバーによる新たな価値創造 ・日本、世界の環境規制の動向

<九州会>

行事	開催日	人数	内 容
第1回講演会	7月19日	10名	・繊維製品、化粧品、食品から見た最近の百貨店の品質管理の取り組み強化ポイントと事例紹介 ・事故・事件などの事例解説と質問応答

◇TES会「品質情報展」

昨年、新型コロナの感染拡大を受け延期となっていた各支部の「TES品質情報展」を開催した。

- 開催日 中国支部：9月17日
中部支部：10月15日
東日本支部：10月27日
北陸支部：11月5日
西日本支部：11月11日

◇経済産業省生活製品課とTES会代表幹事との情報懇談会

今期は、予定が立てられなかったため、来期2023年度に実施予定。

◇『TES会通信』の発行（偶数月）

TES会各支部の行事の案内および開催結果報告をまとめ、TES会員へ情報提供する。

創立50周年記念事業関係

- 目的：協会の理念や歩みを振り返り、今までご尽力いただいた方々に感謝するとともに、未来に向けての更なる発展のきっかけとする。

2022年度実施内容

- ・バーチャル工場見学DVD制作
- ・P7～8に掲載の各支部品質情報展開催

その他の活動

◆会報の発行

- ・第196号（4月1日発行）
- ・第197号（7月1日発行）
- ・第198号（10月1日発行）
- ・第199号（2023年1月1日発行）

◆『ミニ情報』の発行

- ・第39巻1号（4月1日発行）
- ・第39巻2号（6月1日発行）
- ・第39巻3号（8月1日発行）
- ・第39巻4号（10月1日発行）

- ・第39巻5号（12月1日発行）
- ・第39巻6号（2023年2月1日発行）

購読資格：会員限定

- 内 容：行政 [経済産業省、消費者庁、内閣府、文部科学省等の関係情報]
抄録 [規格関係・素材・加工・アパレル・流通・クリーニング・消費・クレーム
・品質管理の分野の最新情報]
行事 [学会、団体、業界等が主催する行事の情報]
- 発 行：偶数月の1日

◆関係団体との連携

- 公益財団法人スガウェザリング技術振興財団へ委員派遣
「2022年度（令和4年度）染色堅ろう度関係JIS改正原案作成委員会」
（松村正明氏を派遣 任期：2023年12月31日まで）
- 一般社団法人繊維評価技術協議会へ委員派遣
「繊維製品の取扱いに関する表示記号等に関するJIS開発」
（亀井 良彦事務局長代行を派遣 任期：2023年2月末日まで）
- 大学間連携(信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学)共同教育推進事業『繊維系大学連合による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成』に運営委員として参画
（運営委員として清嶋展弘委員を派遣 任期：2022年3月31日まで）
※2023年3月31日時点においては活動休止
- 日本繊維製品・クリーニング協議会へ委員派遣
（大橋正男委員を派遣 任期：2023年6月総会まで）
- 繊維の製造・加工・流通関係団体（全国・地方）、検査機関等との連携